

第 97 回日本学生氷上競技選手権大会
アイスホッケー部門競技要項（ファーストディビジョン）

令和 6 年 9 月 19 日

1. 参加資格

日本学生氷上競技連盟加盟校のうち、地区ごとに定められた枠数により出場権を得た各地区の代表14校と前大会ベスト16進出の16校、開催地域枠、前大会セカンドディビジョン優勝校の所属する地域の計32校とする。北海道2、東北3（開催地枠+1）北信越1、関東2、中部1、関西4（前回大会セカンドディビジョン優勝枠+1）、中四国1、九州2、及び昨年度ベスト16進出校（関東地区13、関西地区3）、計32校。

2. 出場制限

- (1) ベンチ入りする選手は、ゴールキーパー最小1名、最大2名。プレイヤー最小5名、最大20名とする。試合開始の整列時にゴールキーパー1名スケーター5名に満たないチームは、没収試合とする。この際、不戦敗（スコアは0-15）として扱う。
- (2) 試合に際して、登録された責任者（チームを管理するスタッフ：監督、コーチ等）が不在のチームは、没収試合とする。この際、不戦敗（スコアは0-15）として扱う。
ベンチ入りスタッフは最小1名、最大6名とする。スタッフとは監督・コーチ・トレーナーあるいは部長・副部長等とし（公財）日本アイスホッケー連盟に登録されている者とする。ただし、学生スタッフ（ドアマン・マネージャー・トレーナー等）は除く。
ベンチ入りする学生スタッフは、フルフェイスマスクの付いたヘルメットを着用すること。
- (3) 外国籍学生の試合出場は、1校につき3名以内とする。なお、休学中の者、交換留学によって、一時的に日本に滞在している外国の大学の学生は、出場資格を持たない。

3. 競技方法

- (1) 32校によるトーナメント戦により1位～5位を決定する。
- (2) 対戦表の左側を仮ホームとし、本部席から向かって左側のベンチに入る。
- (3) 仮ホームチームがユニフォームの色を選択できる。監督会議にはユニフォームを持参し、1回戦と2回戦のユニフォーム確認を行うが、3回戦以降はチーム間で協議すること。チーム間の協議が整わない場合には、速やかに大会事務局に相談し、大会を運営する連盟の指示に従うこと。
- (4) 試合でのホームとビジターは、パックスにて決定する。その際、仮ホームチームが裏表を選択できる。

4. 試合時間と練習時間

正味 20 分×3 ペリオドで行なう。各ペリオド間のインターバルは、10 分とする。

練習時間は、10 分間とする。（練習終了後に製氷あり）

5. 競技規則

（公財）日本アイスホッケー連盟、主管連盟及び本大会事務局の定めるローカルルール以外は、原則として、国際アイスホッケー連盟の定める公式国際競技規則に準ずる。

タイムアウトは、全試合、各チーム 1 回(30 秒)使用できるものとする。

6. 同点の場合(全試合共通)

第 3 ペリオド終了時点において同点の場合、下記の方法で勝敗を決定する。

3 分間のインターバル後、サイドチェンジは行わず、正味 5 分間のスケーター3 対 3 によるサドンデス方式の延長戦により勝敗を決定する。延長戦でも決しない場合は、下記による「ペナルティー・ショット・シュートアウト」(PSS)にて勝敗を決定する。

PSS は、両チーム 5 名の方式で行うが、ローカルルールとして、製氷は行なわず、両サイドを使用し、各チームのゴールキーパーは第 3 ペリオドと同じサイドを利用する。ただし、レフェリーが氷面を確認し、両サイドを利用することがどちらかのチームに不利になると判断した場合には、レフェリーが使用するサイドを決定する。なお、5 名で決着がつかない場合には、タイ・ブレイク方式(サドンデス)で行い、タイ・ブレイクは、同じ選手が何回でも続けてショットを行っても良い。

7. 注意事項

- (1) タイダウンストラップの着用義務がある。(ユニフォームとパンツは、ストラップで密着させなければならない)
- (2) 2004 年 1 月 1 日以降に生まれた選手は、フルフェイスマスク、ネックガード・イヤーガードを着用しなければならない。当該選手は、必ずオールメンバー表の記入欄にチェックを入れること。なお、第 98 回大会以降は、全選手がこの対象となる。
- (3) マウスガードはすべての選手が強制される。
- (4) ユニフォームの名前表記は、一切規制しない。ただし、テープで名前を隠すことは認めない。名前を隠す場合には、同系色の布を縫い付けること。
- (5) 5 人対 5 人のプレー中、同時にペナルティが発生した場合、キャンセルアウトにより、ペナルティベンチに選手をおかななければならないが、氷上に必要な人数(スケーター5 名)を出せない場合には、その場で試合は没収(スコアは 0-15)となる。
- (6) 今大会においては、コーチチャレンジ方式は導入しないものとする。
- (7) 準々決勝以降の試合については、ゴール判定についてビデオサポートシステムを導入し、レフェリーから要請があった場合に映像の確認をする。

- (8) 試合中、ベンチ内での写真・動画撮影は禁止する。
- (9) コーチングの目的にのみ、電子機器の使用を認める。

8. その他

- (1) 主催者及び主管団体は、競技中における怪我について、一切の責任を負わない。
- (2) 大会参加チームは傷害保険に加入すること。
- (3) 各地区予選に関してもこの要項に準じて行うものとする。